

授業科目	保健医療福祉行政論 Health & Welfare Administration		担当教員	千葉 昌樹				
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・3年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	1単位				
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○		○	◎	
授業目的	住民の健康と福祉の向上を目的とする保健医療福祉行政サービスの基本的要素である保健医療福祉行政財政の理念 および仕組みについて学修する。また、保健医療福祉の社会的適用は、政治や行政による政策が中心であることを理解するとともに、その基盤である行政の仕組みや法規を理解する。さらに、人間の健康と生命を保持・増進する社会 システムとしての医療の提供体制の現状について理解する。							
到達目標	1. 保健医療福祉行政の理念と仕組みについて説明できる。 2. 保健医療福祉制度の変遷等について説明できる。 3. 保健医療福祉行政に係る法体系や仕組みの概要について説明できる。							
関連科目	医療概論、公衆衛生学							
テキスト	特に指定しない							
参考書	国民衛生の動向 2022/2023 (一般財団法人 厚生労働統計協会)、藤内修二他編「保健医療福祉行政論」(医学書院)							
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		到達目標の達成度を定期試験、提出物等の内容で総合的に評価する。 レポート：現在、保健・医療・福祉行政で起きている課題など その他：授業への取り組み姿勢					
	レポート	90						
	小テスト							
	提出物							
その他	10							
履修上の 留意事項	既習の関連科目を復習して臨むこと。							
課題に対するフィ ードバックの方法	レポートに関して、補足的意見などを記載して学生に返却する。							
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、保健・医療・福祉行政の理念や仕組み現状と課題について、理解しやすいように授業を行います。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	保健医療福祉行政について	わが国の社会保障の動向と衛生行政の体系					身近な保健医療福祉行政について考える (1.5 時間)	
2	保健医療福祉に関する指標	衛生の主要指標					配布プリントを読んでおくこと (1 時間)。	
3	保健・医療・福祉の動向 (1)	保健・医療の基盤形成と政策と施策					配布プリントを読んでおくこと (1 時間)。	
4	保健・医療・福祉の動向 (2)	社会福祉の基盤形成と政策・施策					配布プリントを読んでおくこと (1 時間)。	
5	医療保険・介護保険	医療提供体制、介護保険制度について					配布プリントを読んでおくこと (1 時間)。	
6	公衆衛生行政施策と推進	計画の策定・推進・評価について					配布プリントを読んでおくこと (1 時間)。	
7	地域保健行政と活動	保健・医療・福祉行政の役割と機能について					現在自分が生活している地域について考える (1 時間)。	
8	労働衛生・健康危機管理	行政組織、法制、対策、労働環境の改善・医療事故等の危機管理					配布プリントを読んでおくこと (1 時間)。	

授業科目	病態診療学Ⅱ Fundamentals of Clinical Medicine II				担当教員	千葉 仁志			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
		○		◎					
授業目的	病態診療学Ⅰをふまえて、さらに、肝臓・胆嚢・膵疾患、腎・尿路系疾患、呼吸器疾患、運動器・骨格系疾患、血液・造血器系疾患、神経・精神系疾患、皮膚疾患、産婦人科系疾患、眼科・耳鼻咽喉科系疾患、小児科疾患、感染症疾患、自己免疫疾患、アレルギー性疾患、加齢と疾患による変化、などについて、病態・検査・診断・治療の概要を学修する。								
到達目標	臨床の現場において管理栄養士として他のメディカルスタッフと連携して、食事の提供や栄養指導を行うための基礎的知識を身につけている。								
関連科目	病態診療学Ⅱは臨床系教育の中核をなしており、2年次後期に履修する病態診療学Ⅰの続編を構成する。本科目の基礎となる科目は、1年次前期の形態機能学Ⅰ、1年次後期の形態機能学Ⅱ・生化学Ⅰ・基礎栄養学、2年次前期の生化学Ⅱ、2年次後期の病態診療学Ⅰである。本科目が基礎の重要部分を構成する科目として、2年次後期～4年次前期の臨床栄養学Ⅰ～Ⅳ、4年次前期の総合演習Ⅱ、4年次通期の管理栄養士総合演習がある。								
テキスト	田中 明編、栄養科学イラストレイテッド「臨床医学 疾病の成り立ち 第3版」、羊土社。 毎回の授業で配布するレジュメは、教科書を簡明に要約し、必要な追加を行っているため、学習の中心に置くべきものである。定期試験対策は、レジュメを中心に行うと効率的である。								
参考書	詳細な参考書として、「看護のための臨床病態学・第4版」（浅野 嘉延、吉山 直樹、南山堂）。 国家試験に向けての学習の補助となるものとして、「レビューブック管理栄養士」（メディックメディア）がある。								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	70%	期末試験：到達目標に関する期末試験を実施し、学習到達度を評価する。学期の初めに配布する定期試験の練習問題・正解を、レジュメ・教科書を参考にしながら疑問点がなくなるまで学習し、定期試験に臨むこと。 小テスト：毎回の授業終了前に、当日の授業内容に関する小テストを行う。各回、60%以上を正解した場合に合格点を与える。 期末試験と小テストの得点合計が60%以上の場合に合格とする。						
	レポート								
	小テスト	30%							
	提出物								
その他									
履修上の留意事項	教員がパワーポイントで作成した講義資料（レジュメ）に基づいて講義を行う。講義前にはレジュメを一読し、要点を把握して授業に参加すること。毎回の授業で実施する小テストに合格するには、授業に注意を絶やさず、授業時間内に重要事項を記憶する姿勢が求められる。小テストではFORMSを使用するので、送受信ができるように通信機器（PC、タブレット、スマートフォン）を準備して授業に参加すること。								
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業終了前に実施する小テストはFORMSを利用するので、解答の送信後に正解と採点結果が直ちに返送される。間違えた箇所をレジュメと教科書・参考書で確認し、理解と正しい情報の確実な記憶に務めること。それが定期試験の合格につながる。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、医師として重要と判断する事項や理解が難しい事項については特に丁寧に授業を行い、図解なども活用して学生が正しく理解することを助けます。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	ガイダンス・疾患別の病態と治療の概要 (1)	病態診療学Ⅱについてのガイダンス、肝臓・胆嚢・膵疾患				授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)			
2	疾患別の病態と治療の概要 (2)	腎・尿路系				授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)			
3	疾患別の病態と治療の概要 (3)	呼吸器系疾患				授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)			
4	疾患別の病態と治療の概要 (4)	運動器・骨格系疾患				授業前にレジュメを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジュメ・テキスト・参考書で復習する。(2時間)			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	疾患別の病態と治療の概要 (5)	血液・造血管系疾患	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
6	疾患別の病態と治療の概要 (6)	神経・精神系疾患	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
7	疾患別の病態と治療の概要 (7)	眼科・耳鼻咽喉科系疾患	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
8	疾患別の病態と治療の概要 (8)	産婦人科系疾患	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
9	疾患別の病態と治療の概要 (9)	感染症	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
10	疾患別の病態と治療の概要 (10)	小児科疾患	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
11	疾患別の病態と治療の概要 (11)	先天性代謝異常	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
12	疾患別の病態と治療の概要 (12)	皮膚疾患	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
13	疾患別の病態と治療の概要 (13)	自己免疫疾患	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
14	疾患別の病態と治療の概要 (14)	アレルギー性疾患	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)
15	疾患別の病態と治療の概要 (15)	加齢と疾患による変化、定期試験について	授業前にレジюмеを一読し、要点を把握しておく。小テストで間違えた箇所を中心に、レジюме・テキスト・参考書で復習する。(2時間)

授業科目	食品科学実験Ⅱ Food Science Laboratory II		担当教員	荒川 義人				
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	実験		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	○	◎			○	○
授業目的	植物性食品や動物性食品に含まれる特徴的な成分を分離、精製する。多様な食品を実験試料として扱い、食品個々の特性を理解するとともに、食品の生産・加工・流通と栄養について、生産条件、食品加工の意義、食品の流通・貯蔵や加工にともなう食品の成分の変化（栄養価、嗜好性、安全性）との関わりについて理解する。							
到達目標	1. 食品成分の定性・定量、同定に関わる手法を身に付けている。 2. 食品個々の成分特性について理解している。 3. 貯蔵や調理・加工にともなう成分変化と、栄養価、嗜好性、安全性の関係について理解している。							
関連科目	食品科学Ⅰ、食品科学Ⅱ							
テキスト	テーマごとにプリントを配布する。							
参考書	津久井亜紀夫 編著 荒川義人他著「食べ物と健康Ⅳ 食品学実験・実習」（樹村房）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況をレポート（60%）、その他（40%）で評価する。その他：授業時の実験操作を進める姿勢					
	レポート	60						
	小テスト							
	提出物							
その他	40							
履修上の留意事項	レポートは、実験テーマごとに内容（結果・考察）をまとめたものを、指定期日までに提出する。レポート作成時、とくに食品科学Ⅰ、Ⅱのテキストで実験内容に該当する箇所の復習を含め2時間程度を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題レポートは、添削のうえ、直接、学生に返却する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習			
1	植物性食品の特性 (1)	小麦粉のでんぷん、グルテンの分離			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。			
2	植物性食品の特性 (2)	小麦粉のでんぷん、グルテンの定性			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。			
3	植物性食品の特性 (3)	野菜のクロロフィルの定性			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。			
4	植物性食品の特性 (4)	野菜のクロロフィル、カロテノイドの分離と定性			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。			
5	植物性食品の特性 (5)	果実の糖分と有機酸の定量（糖酸比の算出）			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。			
6	植物性食品の特性 (6)	海藻のグルタミン酸の抽出			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。			
7	植物性食品の特性 (7)	海藻のグルタミン酸の定性			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。			
8	動物性食品の特性 (1)	牛乳のカゼイン、乳糖の分離			配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
9	動物性食品の特性 (2)	牛乳のカゼイン、乳糖の定性	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
10	食品の鮮度 (1)	野菜のビタミンCの減少～アスコルビナーゼの影響	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
11	食品の鮮度 (2)	牛乳の鮮度判定試験	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
12	食品の鮮度 (3)	鶏卵の鮮度判定試験	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
13	食品の着色 (1)	アミノ・カルボニル反応	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
14	食品の着色 (2)	酵素的褐変反応	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。
15	官能検査	味覚、嗅覚による食品の評価方法	配布プリントと実験テキスト、及び指示する食品科学関連資料で実験内容を確認する。

授業科目	応用栄養学Ⅲ Applied Nutrition III				担当教員	岩部 万衣子		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	講義				単位数	2単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎	○		
授業目的	<p>応用栄養学Ⅰ・応用栄養学Ⅱを基礎として、ライフステージにおいては成人期、高齢期の栄養管理について学修する。成人期の生理的変化と生活習慣の変化や更年期の生理的変化をふまえた成人期の栄養アセスメントと栄養ケアについて理解する。さらに、高齢期の生理的特徴である摂食機能や身体活動レベルの低下等をふまえ、低栄養の予防と対応、脱水、認知症、フレイル等の高齢期の栄養アセスメント、栄養ケアについて学修する。また、運動やスポーツ、ストレスや特殊な環境における身体状況について理解し、対応する栄養ケアについて学修する。休養と睡眠科学についても学修する。</p>							
到達目標	<p>1. 各ライフステージの身体特性、栄養状況を理解し、それぞれの栄養ケアについて説明できる。 2. 運動、ストレス、特殊環境下での身体への影響を理解し、栄養ケアを考えることができる。 3. 休養・睡眠科学に基づいた行動療法を考えることができる。</p>							
関連科目	<p>1年次の形態機能学、生化学、食品科学、調理学、基礎栄養学を基盤とした科目である。 応用栄養学Ⅰ・Ⅱ、応用栄養学実習と関連する。 栄養教育、公衆栄養学、臨床栄養学の基盤となる科目である。</p>							
テキスト	<p>伊藤 貞嘉、佐々木 敏 監修「日本人の食事摂取基準〈2020年版〉」（第一出版） 栢下 淳、上西 一弘 編「栄養化学イラストレイテッド 応用栄養学 改訂第2版」（羊土社）</p>							
参考書	<p>佐々木 敏 著「食事摂取基準入門 - そのところを読む」（同文書院）</p>							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	50	授業内容に応じたレポート(20%)、小テスト(30%)、定期試験(50%)の結果を総合して目標の到達状況を評価する。					
	レポート	20						
	小テスト	30						
	提出物							
その他								
履修上の留意事項	<p>各授業の前後に1～2時間の予習・復習を要する。</p>							
課題に対するフィードバックの方法	<p>小テストは採点し、解答・解説を行う。 提出物は添削し返却する。</p>							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習		
1	成人期の栄養(1)	成人期の特性、栄養上の特徴、生活習慣病				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
2	成人期の栄養(2)	生活習慣病と栄養ケア				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
3	壮年期の栄養	壮年期の特性、栄養ケア				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
4	更年期の栄養	更年期の特性、更年期障害、更年期の栄養ケア				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
5	高齢期の栄養(1)	高齢期の特性、栄養の特徴				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
6	高齢期の栄養(2)	高齢期の栄養障害と栄養ケア				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
7	ライフステージ別食事摂取基準	各ライフステージの食事摂取基準				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
8	運動と栄養(1)	運動時のエネルギー補給				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		
9	運動と栄養(2)	健康増進と運動				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。		

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10	スポーツと栄養	スポーツ種目と栄養	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
11	ストレスと栄養 (1)	ストレスの基本的知識、ストレスと栄養	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
12	ストレスと栄養 (2)	ストレスの実態と対処法	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
13	特殊環境と栄養	特殊環境下における栄養	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
14	休養と睡眠	休養、睡眠科学と行動療法	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
15	危機管理時の栄養 まとめ	災害時を中心とした栄養・食生活 全体のまとめ	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。

授業科目	応用栄養学実習 Applied Nutrition Practicum		担当教員	岩部 万衣子				
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	実習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎	○		
授業目的	応用栄養学Ⅰ・応用栄養学Ⅱ・応用栄養学Ⅲを基礎として、各ライフステージにおける身体状況や栄養状態に応じた栄養ケアについて実習する。提示された個人（集団）に対して、栄養アセスメント、栄養ケア計画作成、評価のデザイン、評価結果のフィードバックなどを実習する。作成した栄養ケア計画についてはプレゼンテーションを行い、目標の設定やモニタリング方法等の説明、質疑応答等を通して、プログラムの評価や改善点などを確認し、栄養ケア・マネジメントについて実習する。							
到達目標	1. 各ライフステージの特徴をふまえ、アセスメント、栄養ケア計画の作成、評価のデザイン、評価結果のフィードバックなど栄養ケア・マネジメントができる。 2. 食事摂取基準を活用できる。							
関連科目	応用栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを基盤とした科目である。 栄養教育、公衆栄養学、臨床栄養学と関連する科目である。							
テキスト	原田まつこ、色川木綿子、大野智子 編「応用栄養学実習 第4版」(講談社)							
参考書	1.「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大学出版部) 2.「日本食品成分表 八訂」(医歯薬出版)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		授業内容に応じたレポート(40%)、提出物(60%)の結果を総合して目標の到達状況を評価する。					
	レポート	40						
	小テスト							
	提出物	60						
その他								
履修上の留意事項	応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを復習すること。 小グループ学習を行うので、各自積極的に取り組むこと。							
課題に対するフィードバックの方法	レポート、提出物は添削し返却する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	ガイダンス 栄養ケア・マネジメントと思春期・成人期の栄養(1)	ガイダンス 思春期・成人期の栄養ケア計画、献立作成					教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。	
2	栄養ケア・マネジメントと思春期・成人期の栄養(2)	思春期・成人期の栄養ケア計画、献立作成					教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。	
3	栄養ケア・マネジメントと思春期・成人期の栄養(3)	思春期・成人期の栄養ケア計画、献立作成					教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。	
4	栄養ケア・マネジメントと思春期・成人期の栄養(4)	思春期・成人期の食事、調理実習、試食、評価					教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。	
5	栄養ケア・マネジメントと思春期・成人期の栄養(5)	思春期・成人期の食事、調理実習、試食、評価					教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。	
6	乳児期・離乳期・幼児期の栄養(1)	乳児期、幼児期の栄養ケア計画、献立作成					教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	乳児期・離乳期・幼児期の栄養(2)	乳児期、幼児期の食事、調理実習、試食、評価	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
8	妊娠・授乳期の栄養(1)	妊娠・授乳期の栄養ケア計画、献立作成	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
9	妊娠・授乳期の栄養(2)	妊娠・授乳期の食事、調理実習、試食、評価	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
10	成壮年期の栄養(1) ケースメソッド	成壮年期の食事、栄養ケア計画、献立作成	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
11	成壮年期の栄養(2) ケースメソッド	成壮年期の食事、栄養ケア計画、献立作成	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
12	高齢期の栄養(1) ケースメソッド	高齢期の食事、栄養ケア計画、献立作成、介護食品	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
13	高齢期の栄養(2) ケースメソッド	高齢期の食事、栄養ケア計画、献立作成、介護食品	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
14	ライフステージと栄養管理	総評:各ライフステージの栄養ケア計画にもとづいた食事について	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。
15	災害時の食生活と栄養	災害時の食事、防災食、評価	教科書、参考資料を中心に1時間程度の予習復習を行う。

授業科目	免疫と栄養 Immunity and Nutrition				担当教員	板垣 康治			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				◎					
授業目的	免疫学の基礎的概念を理解すると共に、感染の基本、免疫防御反応、アレルギー反応のしくみを学び、さらに食物アレルギーについて、発症の機序、わが国における実態、及び食品学、栄養学的側面から原因食品の特徴をとらえ、食物アレルギーへの対応方法などについて学修する。								
到達目標	1. 免疫系の基礎的概念と細菌感染、ウイルス感染について説明できる。 2. 免疫疾患について説明できる。 2. 食物アレルギーの定義、発症機序、実態、病態及び治療法について説明できる。								
関連科目	1年前期に履修した食品科学Ⅰ、1年後期に履修した食品科学Ⅱ、2年後期に履修した食品科学Ⅲ、及び4年前期に履修する食品機能論と関連する。								
テキスト	「休み時間の免疫学」齋藤紀先 著（講談社）「食物アレルギーのすべてがわかる本」海老澤元宏監修（講談社）								
参考書	「食物アレルギーの栄養指導」海老澤元宏監修（医歯薬出版）								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	60	定期試験、授業中の取り組み姿勢（集中度、積極性、出席状況、授業への参加状況、態度）、最終試験などにより目標の到達状況を評価する。 最終試験は、第7回目の授業において行う。						
	レポート								
	最終試験	20							
	提出物								
その他	20								
履修上の留意事項	各授業の前後に各2時間の予習・復習を必要とする								
課題に対するフィードバックの方法	最終試験の解説を最終講義で行ったうえで、総括、まとめを行う。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験（横浜市立大学大学院環境免疫皮膚科学講座客員教授）を踏まえて、免疫・アレルギー疾患事例などを講義に織り交ぜながら、免疫学の基礎、および食物アレルギーについて理解が深まるように授業を行う。								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	ガイダンス/細菌感染	細菌感染に対する防御反応、細菌感染における抗体産生				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの練習問題で復習する（2時間）。			
2	ウイルス感染	ウイルスに対する防御反応				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの練習問題で復習する（2時間）。			
3	適応免疫に関わる物質・細胞	抗体・抗原、リンパ球（B細胞、T細胞）				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの練習問題で復習する（2時間）。			
4	補体と免疫細胞 免疫による感染防御	補体の働き、免疫細胞（白血球、好中球、単球・マクロファージ、樹状細胞、NK細胞とNKT細胞）、炎症、ワクチン				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの練習問題で復習する（2時間）。			
5	過剰・異常な免疫による疾患のメカニズム	Ⅰ型アレルギー、Ⅱ型アレルギー、Ⅲ型アレルギー、Ⅳ型アレルギー、免疫不全、がんと免疫、ストレスと免疫				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキストの練習問題で復習する（2時間）。			
6	食物アレルギー	食物アレルギーの基礎、疫学、診断と治療				事前：関連部分をテキスト等で予習する（2時間）。事後：テキスト等で復習する（2時間）。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	免疫と栄養の総括 (1)	免疫学、食物アレルギーの総括 最終試験	事前：テキスト等で重要項目を中心に復習する (2 時間)。事後：最終試験の内容を中心に理解が不十分な箇所を再度、復習する (2 時間)。
8	免疫と栄養の総括 (2)	最終試験の解説とまとめ	事前：テキストを用いて重要項目を中心に確認する (2 時間)。事後：配布資料で復習する (2 時間)。

授業科目	スポーツ栄養学（基礎） Sports Nutrition(Basic)				担当教員	東郷 将成			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎				
授業目的	スポーツ選手・実施者に必要な食事・栄養素の役割と重要性について学ぶ。								
到達目標	スポーツ選手・実施者に必要な食事量や栄養素の種類や量、役割について理解する。								
関連科目	既習の「基礎栄養学」「応用栄養学」「形態機能学」の学修を基礎都市、「スポーツ栄養学総論」「スポーツ栄養学（応用）」「スポーツ栄養学演習」に関連する。								
テキスト	エッセンシャルスポーツ栄養学（日本スポーツ栄養学会、市村出版、2020）								
参考書									
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点						
	試験	60	到達目標の達成度を試験、各授業でのレポート内容で評価する。						
	レポート	40							
	小テスト								
	提出物								
その他									
履修上の留意事項	1、2年次で履修した「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「形態機能学」の復習をしておくこと。								
課題に対するフィードバックの方法	スポーツ栄養分野における栄養サポートの基礎とし、授業内において指導およびフィードバックを行う。								
実務経験を活かした教育内容									
回数（担当）	学習の主題	授業内容						事前・事後学習	
1	スポーツにおけるエネルギー供給系およびエネルギー代謝	運動に必要なエネルギー供給とその代謝について学ぶ。						事前にシラバスを読んでおく。テキストを確認し、内容を復習する。	
2	スポーツにおける糖質	運動時に必要な糖質の栄養・摂取方法等について学ぶ。						授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。	
3	スポーツにおけるたんぱく質	運動時に必要なたんぱく質の栄養・摂取方法等について学ぶ。						授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。	
4	スポーツにおける脂質	運動時に必要な脂質の栄養・摂取方法等について学ぶ。						授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。	
5	スポーツにおけるビタミン	運動時に必要なビタミンの栄養・摂取方法等について学ぶ。						授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。	
6	スポーツにおけるミネラル	運動時に必要なミネラルの栄養・摂取方法等について学ぶ。						授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。	
7	スポーツにおける水分補給	運動時に必要な水分の摂取方法等について学ぶ。						授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。	
8	スポーツにおける補食・サプリメント	運動時に必要な補食やサプリメントの摂取方法等について学ぶ。						授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。	

授業科目	スポーツ栄養学（応用） Sports Nutrition (Applied)				担当教員	松本 恵			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎				
授業目的	最新スポーツ栄養学を用いてコンディショニング方法を学ぶ。								
到達目標	スポーツ選手を対象として、コンディション維持・調整と課題に対する対応が分かるようになる。スポーツ選手の栄養サポートに活用、実践できる知識を身に付ける。								
関連科目	「スポーツ栄養学総論」「スポーツ栄養学（基礎）」の学修を基礎とし、「スポーツ栄養学演習」に関連する。								
テキスト	開講時に提示します。								
参考書									
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験		到達目標の達成度を提出物（資料媒体の作成）やレポート内容で評価する。						
	レポート	40							
	小テスト								
	提出物	60							
その他									
履修上の留意事項	各授業の前後に 1～2 時間の予習、1～2 時間の復習を要する。								
課題に対するフィードバックの方法	授業内で返却し、達成度について確認する。								
実務経験を活かした教育内容	日本代表チームやオリンピック選手の栄養サポート実務経験をもとに具体的事例を示しながら理解を深める。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	スポーツ選手の栄養アセスメント	栄養アセスメントの考え方、方法について				事前にシラバスを読んでおく。テキストを確認し、内容を復習する。			
2	エネルギー不足	スポーツにおける相対的エネルギー不足の栄養管理について				授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。			
3	スポーツ選手のウェイトコントロール I	体重増量時の栄養管理について				授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。			
4	スポーツ選手のウェイトコントロール II	体重減量時の栄養管理について				授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。			
5	スポーツ貧血予防と改善	スポーツ貧血の予防と改善のための栄養理論と栄養管理について				授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。			
6	疲労骨折・けがからの回復	スポーツ選手の疲労骨折予防やけがからの回復時の栄養管理について				授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。			
7	ジュニアスポーツ選手の栄養管理	成長期のジュニアスポーツ選手の食事・栄養管理の考え方				授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。			
8	特殊環境での栄養管理	高所トレーニングや寒冷地、暑熱環境でのスポーツ時の栄養管理について				授業前に前回の学習内容を確認する。テキストを確認し、内容を復習する。			

授業科目	スポーツ栄養学演習 Seminar in Sports Nutrition		担当教員	槌本 浩司、千葉 昌樹、松本 恵				
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・通年		選択・必修	選択				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎		○	○
授業目的	スポーツ選手を対象に食事を適切に管理できるようになるために、実践を通じてスキルを修得する。							
到達目標	スポーツ選手の栄養管理に必要な食事調査や体調管理・測定方法を体験し、方法を知る。調査・測定結果をもとに、スポーツ選手の栄養管理の体験、実践を通じてスキルを身に付ける。							
関連科目	スポーツ理論、スポーツ科学と運動、スポーツ栄養学総論、スポーツ栄養学（基礎）、スポーツ栄養学（応用）、応用栄養学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、							
テキスト	開講時に提示します。							
参考書								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		到達目標の達成度を提出物等の内容で総合的に評価する。 レポート：見学等に関する内容 提出物：調査データ、献立、栄養マネジメント用資料 その他：授業への取り組み姿勢					
	レポート	10						
	小テスト							
	提出物	80						
その他	10							
履修上の留意事項	具体的な事例に関わりながら、栄養サポートの方法について理解を深める。 各回、講義資料に基づき復習する時間を確保し、講義や演習に必要な準備をして臨むこと。演習は履修人数によってクラス分けする可能性がある							
課題に対するフィードバックの方法	提出物にはコメントを付して返却する。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験をもとにスポーツ栄養学を学ぶための具体的な演習を行いながら理解を深める。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習			
1 (槌本)	ガイダンス。食事調査、体組成測定方法	演習のガイダンスと、栄養食事摂取量の調査、体組成測定の方法を学ぶ。			事前にシラバスを読んで、授業全体の流れを確認しておくこと (1時間)。			
2 (槌本)	身体活動時のエネルギー消費と代謝測定	エネルギーの消費、エネルギーの代謝測定の方法を学ぶ。			事前学習：エネルギー消費量の計算方法とエネルギー消費の測定方法について調べる (1~2時間) 事後学習：資料を基に授業内容を復習する (1~2時間)			
3 (槌本)	栄養食事摂取量の調査と体組成測定	栄養食事摂取量の調査、測定データの読み取り方を学ぶ。			事前学習：身体活動基準・指針を理解しメッツ計算について調べる。 事後学習：資料を基に授業内容を復習する (1~2時間)			
4 (槌本)	スポーツ選手の運動量 (ユースチーム)	ユースチームのエネルギー消費量を学ぶ。			事前学習：運動強度の評価について調べる。 事後学習：資料を基に授業内容を復習する (1~2時間)			
5 (槌本)	スポーツ選手の運動量 (トップチーム)	トップチームのエネルギー消費量を学ぶ。			事前学習：前回の学習内容を確認する。 事後学習：資料を基に授業内容を復習する (1~2時間)			
6 (槌本)								
7 (槌本)	エネルギーの消費	運動によるエネルギー消費を学ぶ。			事前学習：前回の学習内容を確認する。 事後学習：資料を基に授業内容を復習する (1~2時間)			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8 (千葉)	スポーツ選手の食事 (献立と調理) 1	スポーツ選手に必要な食事内容、調理方法を学ぶ。	授業前に前回の学習内容を確認する。課題に取り組む(1時間)。
9 (千葉)			
10 (千葉)	スポーツ選手の食事 (献立と調理) 2	スポーツ選手に必要な食事内容、調理方法を学ぶ。	授業前に前回の学習内容を確認する。課題に取り組む(1時間)。
11 (千葉)			
12 (千葉)	スポーツ選手の栄養サ ポート	スポーツ選手の栄養マネジメントを学ぶ。	授業前に前回の学習内容を確認する。課題に取り組む(1時間)。
13 (千葉)			
14 (松本)	スポーツ選手の栄養管 理計画、発表	スポーツ選手の栄養サポートの計画、立案、発表、ディス カッションを行う。	課題にしっかり取り組む(1時 間)。
15 (松本)			

授業科目	栄養教育論Ⅲ Nutrition Education III				担当教員	岩部 万衣子、板垣 康治			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎	○			
授業目的	教育対象者のライフステージ（発達段階と場）に合わせた栄養教育について学修する。妊婦・授乳婦、新生児・乳児、幼児、児童・生徒、成人など各対象者に対応した栄養教育と場について理解する。さらに、不特定多数の集団を対象とする栄養教育の方法や、障がい者、運動実施者を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法について理解する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育対象者の各ライフステージに合わせた栄養教育方法について説明できる。 2. 教育対象者のライフスタイルに合わせた栄養教育方法について説明できる。 3. 障がい者、運動実施者（健康運動実施者、アスリート）の栄養教育方法について説明できる。 4. 不特定多数の集団を対象とした栄養教育の方法について説明できる。 								
関連科目	栄養教育論Ⅰ・Ⅱと基盤とする科目である。 栄養教育論実習、応用栄養学、公衆栄養学、臨床栄養学と関連する科目である。								
テキスト	栄養教育論Ⅰ・Ⅱと同じテキストを使用 （池田小夜子、斎藤トシ子、川野因「サクセス管理栄養士講座 栄養教育論」(第一出版)） ※その他、適宜プリントを配布する。								
参考書									
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	70	授業内容に応じた提出物（30%）、定期試験（70%）の結果を総合して、目標の到達状況を評価する。 岩部 90%：定期試験（60%）、提出物（30%） 板垣 10%：定期試験（10%）						
	レポート								
	小テスト								
	提出物	30							
その他									
履修上の留意事項	関連科目で修得した知識の統合を図り、栄養教育の実践力を高める。 各授業の前後に1～2時間の予習・復習を要する。								
課題に対するフィードバックの方法	提出物は添削し返却する。								
実務経験を活かした教育内容									
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1 (岩部)	ガイダンス、対象集団に合わせた栄養教育とは	授業ガイダンス 対象集団に合わせた栄養教育（栄養アセスメントと課題の選択、優先順位、栄養教育計画、評価など、栄養教育論Ⅰ・Ⅱの振り返り）				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
2 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育 (1)	妊婦・授乳婦を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法(1)				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
3 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育 (2)	妊婦・授乳婦・新生児・乳児を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
4 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育 (3)	乳児を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法（離乳食）				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
5 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育 (4)	幼児を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
6 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育 (5)	児童を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
7 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育 (6)	生徒を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
8 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育 (7)	成人を対象とした栄養教育の場と方法(1)(食事バランスガイド)				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			
9 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育 (8)	成人を対象とした栄養教育の場と方法(2)(休養指導)				教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
10 (岩部)	ライフステージに応じた栄養教育 (9)	成人を対象とした栄養教育の場と方法(運動・身体活動)	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
11 (板垣)	ライフステージに応じた栄養教育 (10)	各ライフステージにおける食物アレルギーについて	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
12 (岩部)	アスリートを対象とした栄養教育	アスリートを対象とした栄養教育の場と方法	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
13 (岩部)	障がい・障がい児を対象とした栄養教育	障がい・障がい児を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
14 (岩部)	不特定多数の集団を対象とした栄養教育	不特定多数の集団を対象とした栄養教育の場と栄養教育の方法	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。
15 (岩部)	食環境づくりと栄養教育・栄養教育論Ⅲのまとめ	栄養教育のための食環境づくり ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育と食環境づくりについてのまとめ	教科書を中心に1時間程度の予習復習を行う。

授業科目	栄養教育論実習 Nutrition Education Practicum				担当教員	百々瀬 いづみ			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	実習				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎	◎		○	
授業目的	栄養教育論Ⅰ・栄養教育論Ⅱ・栄養教育論Ⅲで学修した基礎的な知識にもとづき、課題を設定し栄養評価を行う。データを分析・評価したうえで、根拠に基づいた指導目標を設定し、実践的な栄養教育の実習を行う。適切な栄養教育方法を選択し、栄養教育計画を作成、ロールプレイおよび、地域で実際に栄養教育を実施する。同時に栄養教育に有効な指導媒体の作成、発表後のグループディスカッションなどを通して実施した栄養教育の評価を行い、栄養教育をマネジメントする能力を身につける。								
到達目標	1. コンピューター等を用いて、栄養情報の分析、評価ができる。 2. 対象者の特性に対応した栄養教育プログラムを立案、指導媒体の作成ができる。 3. 栄養教育を実施・評価し、プログラムの修正案を提示できる。								
関連科目	栄養教育論Ⅰ・栄養教育論Ⅱ・栄養教育論Ⅲ、および応用栄養学とも関連する。								
テキスト	無し（適宜、資料を配付する）								
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。								
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準・観点						
	試験		目標の達成状況を下記の視点から評価する。 ※提出物						
	レポート		1) 自己の食事内容・生活リズム・身体活動状況等の記録、自己分析 2) 個別栄養教育指導案、個別栄養教育後の評価（自己・他者評価）						
	小テスト		3) 各種食事調査法の結果と考察 4) 集団教育のデータ解析、教育計画						
	提出物	85	5) 栄養教育（実践）の計画と評価						
	その他	15	※その他：討議の際の積極性・協調性、自己評価の取り組み姿勢、発表時の態度等により総合的に評価する。						
履修上の留意事項	関連科目で修得した知識を実習に応用すること。 授業で行うグループ討議には積極的に参加し、課題に取り組みながら実践力を高めること。								
課題に対するフィードバックの方法	提出課題に対して、授業の中で解説したり、提出物にコメントを付して返却します。								
実務経験を活かした教育内容	学生が取り組む栄養教育の準備や実施後の評価に当たっては、実務経験者の立場から、地域の実情を踏まえた助言・指導を行いながら授業を行います。								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	授業ガイダンス、 栄養教育実践準備(1)	授業ガイダンス 栄養教育実践の準備(計画、教育媒体作成等)				既修科目(栄養教育論Ⅰ～Ⅲ等)における関連事項の復習を要する(1時間程)。			
2	栄養教育実践の準備(2)	栄養教育実践の準備(教育媒体作成、教育練習等)				グループ作業のため、事前の関連学修と事後に打ち合わせ等を要する(1時間程)。			
3	不特定多数の集団向け教育媒体の作成(1)	不特定多数の集団に向けた効果的な教育媒体を考案する(1)				グループ作業のため、事前の関連学修と事後に打ち合わせ等を要する(1時間程)。			
4	不特定多数の集団向け教育媒体の作成(2)	不特定多数の集団に向けた効果的な教育媒体を考案(2)・ 中間発表				グループ作業のため、事前の関連学修と事後に打ち合わせ等を要する(1時間程)。			
5	集団栄養教育(1)	集団栄養教育のためのデータ分析、課題の抽出、栄養教育計画作成				グループ作業のため、事前の関連学修と事後に打ち合わせ等を要する(1時間程)。			
6	集団栄養教育(2)	集団栄養教育計画作成、発表				グループ作業のため、事前の関連学修と事後に打ち合わせ等を要する(1時間程)。			
7	食物摂取頻度調査	食物摂取頻度調査の実施、自己の評価				授業前に関連事項の学修を要する。時間内に終了しない場合、事後学習とする(1時間程)。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	24時間思い出し法	食事調査(24時間思い出し法)の実施、自己・他者の評価	授業前に関連事項の学修を要する。時間内に終了しない場合、事後学習とする(1時間程)。
9	個別栄養教育(1)	個別栄養教育(ロールプレイ)の準備(指導案作成、栄養教育用媒体作成等)(1)	授業前に関連事項の学修を要する。時間内に準備が終了しない場合、事後学習とする(1時間程)。
10	個別栄養教育(2)	個別栄養教育(ロールプレイ)の準備(指導案作成、栄養教育用媒体作成等)(2)	授業前に関連事項の学修を要する。時間内に準備が終了しない場合、事後学習とする(1時間程)。
11	個別栄養教育(3)	カウンセリング技法を用いた個別栄養教育(ロールプレイ)	授業前・後に関連事項の学修を要する(1時間程)。
12	栄養教育実践の準備(3)	栄養教育実践のリハーサル	授業前に関連事項の学修を要する。時間内に終了しない場合、事後学習とする(1時間程)。
13	栄養教育実践の準備(4)	栄養教育実践に向け、評価・改善等	授業前に関連事項の学修を要する。時間内に準備が終了しない場合、事後学習とする(1時間程)。
14	栄養教育実践	地域住民を対象に、栄養教育を実践する。	授業前・後に関連事項の学修を要する(1時間程)。
15	栄養教育実践の振り返り 不特定多数の集団向け 教育媒体の作成(3)	地域住民を対象に実践した栄養教育について評価を行う。 不特定多数の集団向け教育媒体を完成させ、発表する。	授業前・後に関連事項の学修を要する(1時間程)。

授業科目	栄養カウンセリング演習 Practical Seminar of Nutrition Counseling		担当教員	岡本 智子				
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期		選択・必修	選択				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
			○	○	◎	○		
授業目的	<p>栄養教育においては対象者自身が自らの課題に気づき、行動変容により課題を解決しようとする（主体性をもつこと）個々人に合わせた支援が求められている。またその支援は一方ではなく双方向の関わりにより、対象者との信頼関係を構築しながら継続したフォローが必要となる。そのためには栄養カウンセリング理論を把握した上で、その技法（スキル）を修得し、カウンセリングマインドを身につけた対応が必要となる。この授業では対象者の行動療法を行うために基本的なカウンセリング理論のもと、演習を中心に、個別だけではなく集団栄養教育へどのように応用すればよいか具体的なスキルを体得することを目的とする</p>							
到達目標	<p>管理栄養士として、人々の疾病の予防・治療や健康維持・増進にとって欠かすことのできない栄養教育を行う上での必要な知識と技術を学び実践できる能力を身につけ、対象者に合わせた栄養カウンセリングができ、栄養教育・栄養サポートができるようになる。</p>							
関連科目	教育心理学							
テキスト	使用しない							
参考書	上原誉志夫外、「第5版最新臨床栄養学 栄養と治療の基礎と実際」光生館（臨床栄養学Ⅲ（3年後期で使用する））							
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準・観点					
	試験		<p>目標の到達状況を下記の方法で評価する。 演習時の参加状況（授業態度を含む）、レポート：50% その他（課題の実践状況）：50%</p>					
	レポート	50						
	小テスト							
	提出物							
その他	50							
履修上の留意事項	<p>演習の授業であるため学んだことを実践して次の授業に望むこと。気づきや考えをレポートにまとめて必ず提出すること。</p>							
課題に対するフィードバックの方法	<p>レポートには翌週の授業時にコメントを付して返却する</p>							
実務経験を活かした教育内容	<p>実務経験者の立場から対象者に合わせたカウンセリング法を体得できるよう“わかる”から“できる”ようにトレーニングを繰り返していく。また演習により体感できたことを自らの言葉で話せるようにする。結果、対象者への伝えたいことを言葉で伝えられるよう授業を行う。</p>							
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習			
1	ガイダンス（科目の目的）	この演習の目的、この授業の全体の流れ、一回ごとの授業の流れ、次回までの課題の実践方法、レポート提出の方法について			事前：シラバスに目を通しておくこと。（1時間）			
2	栄養カウンセリングの効果と栄養教育に必要なカウンセリングスキル①傾聴その1	栄養教育におけるカウンセリングの位置づけとカウンセリングスキルの実践			事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）			
3	栄養教育に必要なカウンセリングスキル②傾聴その2（受容と共感）	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践			事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）			
4	栄養教育に必要なカウンセリングスキル③承認その1	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践			事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）			
5	栄養教育に必要なカウンセリングスキル④承認その2	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践			事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	栄養教育に必要なカウンセリングスキル⑤質問その1	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
7	栄養教育に必要なカウンセリングスキル⑥質問その2	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
8	栄養教育に必要なカウンセリングスキル⑦提案と要望、フィードバック	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
9	栄養教育に必要なカウンセリングの流れ（その1）	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
10	栄養教育に必要なカウンセリングの流れ（その2）	栄養教育におけるカウンセリングスキルの実践	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
11	ライフステージと食行動の特徴（妊娠・授乳期・学童期の食行動）	心の状態と食行動を理解する	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
12	ライフステージと食行動の特徴（青年期・成人・壮年期・高齢期の食行動）	この時期の身体の変化、生活スタイルの特徴を捉え、食行動を理解する。また高齢者とのコミュニケーションの取り方を学び実践する。	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
13	カウンセリングに必要な食行動理論について（その1、その2）	摂食障害における食行動（高度肥満）・（神経性食欲不振症・神経性過食症）のカウンセリングについて理解と実践をする	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
14	集団栄養教育におけるグループアプローチ	グループディスカッションにおいての役割について理解と実践をする	事前：指示した配布資料の該当部分を読んでおく。事後：授業の学びと、学んだスキルを実践し、その実践結果をレポートする（1時間）
15	まとめ	これまでの授業を振り返る。学びの成果をまとめる。	授業全体を振り返る。レポートにまとめる（1時間）

授業科目	食生活論 Dietary Life				担当教員	白崎 佳美			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	選択			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				◎	○		○		
授業目的	<p>・ 栄養教諭の制度と役割に関する知識（特別支援学校を含む）と ICT を活用した学校給食管理の業務効率化を図るための知識と技法を修得する。</p> <p>・ 学校給食における食育の推進を理解し、食文化と食に関わる歴史についての知識を活用し、食に関する指導に繋げる実践力を養う。</p>								
到達目標	<p>・ 栄養教諭の職務が「食に関する指導」と「学校給食の管理」を一体のものとして行うことを理解し、教育上の高い相乗効果をもたらすための専門性を身に付け、業務の効率化のために ICT を活用することができる。</p> <p>・ それぞれの国や地域の風土及び伝統に根ざした文化的な営みである食を通じて地域等を理解し、食文化や地場産品の活用について調査・発表することができる。</p>								
関連科目	応用栄養学Ⅱ、栄養教育論Ⅲ								
テキスト	金田雅代編者「四訂栄養教諭論」（建帛社） 文部科学省「食に関する指導の手引き 第二次改訂版」								
参考書									
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	50	目標の到達状況を試験、提出物、その他で評価する。 提出物：授業内容に応じたレポート等（20%） その他：プレゼンテーション 10% 授業時の取組み姿勢 20%						
	レポート								
	小テスト								
	提出物	20							
その他	30								
履修上の留意事項	栄養教諭の役割を理解し、食育に取り組むための知識を身に付け、実践の基礎ができることを望む。 授業の事前と事後に、予習・復習の時間として各々1時間程度を要する。								
課題に対するフィードバックの方法	最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 提出物にはコメントを付して返却する。								
実務経験を活かした教育内容	栄養教諭の経験から、講義内でその知見を活かした授業展開を行っていきたいと考えている。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	栄養教諭の制度と役割	栄養教諭制度創設の経緯、学校給食法、学校給食の歴史、栄養教諭の職務、学校組織の栄養教諭の位置付け（校務分掌と各種委員会活動）				事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる			
2	学校給食管理 ①	栄養管理 学校給食実施基準に基づいた学校給食摂取基準・食品構成について				事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる			
3	学校給食管理 ②	衛生管理 学校給食衛生管理基準 作業工程表・作業動線図 PCでの実践				事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる			
4	学校給食管理 ③	ICT を活用した業務効率化 給食管理ソフトや表計算ソフトの活用 PCでの実践				事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる			
5	学校における食育の推進	食に関する指導の目標 【食育の視点】 ① 食事の重要性 ② 心身の健康 ③ 食品を選択する能力 ④ 感謝の心 ⑤ 社会性 ⑥ 食文化				事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる			
6	給食の時間に行われる食に関する指導 ①	給食指導【給食の準備から片付けまでの一連の指導】学級担任と栄養教諭の連携 正しい手洗い、配膳方法、食器の並べ方、箸の使い方、食事のマナー等				事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	給食の時間に行われる食に関する指導 ②	食に関する指導【献立を教材とした給食時間の指導】学級担任と栄養教諭の連携 給食を教材とした教科等における食に関する指導	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
8	食文化と食に関わる歴史①	日本の食文化と日本型食生活、米飯給食の普及 郷土食・行事食・地場産物の活用	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
9	食文化と食に関わる歴史②	日本における食の欧米化、学校給食の多様化 世界の食文化と学校給食の関わり	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
10	食文化と食に関わる歴史③	食文化（郷土食・行事食・地場産物・世界の食文化）についての調査・研究 *食に関する指導や献立に活かす観点から調査する	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
11	食文化と食に関わる歴史④	食文化についての調査・研究 食文化についてのプレゼンテーション	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
12	食文化と食に関わる歴史⑤	食文化についてのプレゼンテーション 感想・意見交換等	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
13	特別支援学校における栄養教諭の役割	特別支援学校について 職務内容、多職種との連携・協働について	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
14	特別支援学校における食に関する指導	食に関する全体計画(知的障害のある児童生徒の教育を行う場合) 障害に応じた指導、自立活動と関連付けた指導、個別的な相談指導	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
15	フィードバック	前期の学習についての質問・意見・感想等	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる

授業科目	食育指導論 Nutrition Education in Syokuiku		担当教員	白崎 佳美				
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期		選択・必修	選択				
授業形態	講義		単位数	2単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎	○			
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食管理を基礎とし、教材として活用できる献立作成と、ICTを活用した食に関する指導を修得する。 ・家庭・地域との連携、多職種および関係者との連携・協働の重要性について理解する。 ・児童生徒への望ましい食習慣の形成に向けた指導を行うために必要な知識やリスクマネジメントについての知識を修得する。 							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・給食時間や各教科に関連した食に関する指導において教材として活用できる献立を作成し、指導内容をICTを活用して発表することができる。 ・学校内における様々な場面での指導や、家庭・地域との連携・調整の重要性を広くとらえることができる。 ・個別的な相談指導における栄養教諭の役割や、リスクマネジメントについて理解することができる。 							
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・「給食経営管理論Ⅰ」「栄養教育論Ⅱ」、「応用栄養学Ⅱ」と関連するので復習しておくこと。 							
テキスト	金田雅代編者「四訂栄養教諭論」(建帛社) 文部科学省「食に関する指導の手引き 第二次改訂版」							
参考書								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験	40	目標の到達状況を試験、提出物、その他で評価する。 提出物：授業内容に応じたレポート等 (20%) その他：プレゼンテーション 20% 授業時の取組み姿勢 20%					
	レポート							
	小テスト							
	提出物	20						
その他	40							
履修上の留意事項	学校給食献立作成から食に関する指導までをとおして、受講者間において講義内容に関する自由闊達な議論が展開されることを望む。 授業の事前と事後に、予習・復習の時間として各々1時間程度を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 提出物にはコメントを付して返却する。							
実務経験を活かした教育内容	栄養教諭の経験から、講義内でその知見を活かした授業展開を行っていきたいと考えている。							
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1	教材として活用できる献立作成 ①	学校給食摂取基準について復習 献立作成のポイント(年間計画・予算・施設設備・調理能力等)					事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる	
2	教材として活用できる献立作成 ②	指導内容を考慮した献立にする(事前・事後学習を含む) *講義・作成 主食・主菜・副菜のそろったバランスのよい献立					事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる	
3	教材として活用できる献立作成 ③	指導内容を考慮した献立にする(事前・事後学習を含む) *講義・作成 郷土食・行事食・旬の地場産物や世界の食文化(オリンピック等の時期)を考慮					事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる	
4	教材として活用できる献立作成 ④	調理場における衛生管理と調理技術 *講義・作成 調理従事者とのコミュニケーション(調理指示等)					事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる	
5	教材として活用できる献立作成 ⑤	作成した献立のプレゼンテーションをする 感想・意見交換等					事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる	
6	教材として活用できる献立作成 ⑥	学校給食を教材とした指導事例 各々の設定(給食時間や各教科等)で献立と関連付けた指導案を作成する					事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	教材として活用できる 献立作成 ⑦	各々の設定（給食時間や各教科等）で献立と関連付けた指導案を作成する	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
8	ICTを活用したプレゼンテーション ①	ICTを活用した授業事例 作成した指導案をICTを活用してプレゼンテーションをする	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
9	ICTを活用したプレゼンテーション ②	作成した指導案をICTを活用してプレゼンテーションをする 感想・意見交換等	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
10	家庭・地域との連携 ①	情報提供等により共通理解を図る ホームページ、給食だより、給食試食会、食に関する講習会等	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
11	家庭・地域との連携 ②	情報提供物・掲示物等の作成とプレゼンテーション	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
12	個別的な相談指導における栄養教諭の役割 ①	発育・発達期である児童生徒の健康と、望ましい食習慣の形成のための個別的な相談指導の進め方について（主治医・担任・養護教諭等との連携）	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
13	個別的な相談指導における栄養教諭の役割 ②	学校給食における食物アレルギー対応（主治医・担任・養護教諭等との連携）	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
14	学校給食におけるリスクマネジメント	食中毒の防止、異物混入の防止、食物アレルギー対応、窒息事故防止等 災害時の対応（臨時休校や分散登校等）、防災給食、災害用備蓄品の準備	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる
15	フィードバック	前期・後期の学習についての質問・意見・感想等 専門職の役割と多職種および関係者との連携・協働について	事前：テキストを見て予習する 事後：学習内容を復習し要点をまとめる

授業科目	臨床栄養学Ⅱ Clinical Nutrition II				担当教員	氏家 志乃			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎		○		
授業目的	栄養・食事療法と栄養補給について学修する。経口栄養補給法の目的、食事の形態、治療食の分類、食品と献立作成について学修する。経腸栄養補給法、静脈栄養補給法の目的や適応疾患について理解し、経腸栄養管理、中心静脈と末梢静脈栄養、輸液の種類と成分、栄養補給の算定を学ぶ。								
到達目標	1. 各疾患における「栄養代謝の特徴」を理解し、科学的根拠に基づいた栄養・食事療法について説明できる。 2. 管理栄養士が実践する臨床栄養管理について理解し説明できる。								
関連科目	形態機能学、基礎栄養学、病態診療学								
テキスト	Visual 栄養学テキスト 臨床栄養学Ⅱ 各論 (中山書店)								
参考書	日本人の食事摂取基準 2020年度版(第一出版) Visual 栄養学テキスト 臨床栄養学Ⅰ 総論(中山書店) 八訂食品成分表 (女子栄養大学出版)								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	80	到達目標の達成度を試験、課題で評価する。						
	レポート	10							
	小テスト								
	提出物	10							
	その他								
履修上の留意事項	各授業の前後に1～2時間の予習・復習を要する。								
課題に対するフィードバックの方法	課題は翌週の授業で解説を行う。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での症例などを講義で織り交ぜながら、疾患別の栄養管理について栄養評価、栄養計画、実施、経過観察、再評価など理解しやすいように具体的に授業を進めます。								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	ガイダンス	臨床栄養学Ⅰの振り返り、臨床栄養学Ⅱとは				事前) シラバスを確認する。臨床栄養学Ⅰを復習する。 事後) 授業内容を整理する。			
2	疾患別治療食(1)	ナトリウムコントロール食と適応疾患①(循環器疾患)				事前) 教科書を読んでおく。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
3	疾患別治療食(2)	ナトリウムコントロール食と適応疾患②(循環器疾患)				事前) 前回授業の内容を振り返る。 教科書を読んでおく。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
4	疾患別治療食(3)	エネルギーコントロール食と適応疾患①(代謝性疾患)				事前) 教科書を読んでおく。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
5	疾患別治療食(4)	エネルギーコントロール食と適応疾患②(代謝性疾患)				事前) 前回授業の内容を振り返る。 教科書を読む。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
6	疾患別治療食(5)	エネルギーコントロール食と適応疾患③(代謝性疾患)				事前) 前回授業の内容を振り返る。 教科書を読む。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
7	疾患別治療食(6)	易消化食と適応疾患①(消化器疾患:胃・十二指腸疾患)				事前) 教科書を読んでおく。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
8	疾患別治療食(7)	易消化食と適応疾患②(クローン病・潰瘍性大腸炎)				事前) 前回授業の内容を振り返る。 教科書を読む。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
9	疾患別治療食(8)	脂質コントロール食と適応疾患(膵・胆のう疾患)				事前) 教科書を読んでおく。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			
10	疾患別治療食(9)	たんぱく質コントロール食と適応疾患①(肝疾患)				事前) 教科書を読んでおく。 事後) 教科書、配布資料を復習する。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
11	疾患別治療食 (10)	たんぱく質コントロール食とその適応疾患② (腎疾患)	事前) 教科書を読んでおく。 事後) 教科書、配布資料を復習する。
12	疾患別治療食 (11)	たんぱく質コントロール食とその適応疾患③ (腎疾患・人工透析)	事前) 前回授業の内容を振り返る。 教科書を読む。 事後) 教科書、配布資料を復習する。
13	疾患別治療食 (12)	褥瘡/摂食嚥下障害	事前) 教科書を読んでおく。 臨床栄養学Ⅰ「食形態・摂食嚥下」について復習しておく。 事後) 教科書、配布資料を復習する。
14	経腸・経静脈栄養法	2年生の振り返り (適応・禁忌・合併症) / 経腸栄養で使用する栄養剤・経静脈栄養で使用する輸液の種類	事前) 臨床栄養学Ⅰ栄養投与方法 (経腸栄養・静脈栄養について復習しておく。 事後) 教科書、配布資料を復習する。
15	チーム医療/まとめ	チーム医療と管理栄養士の役割/臨床栄養学Ⅱのまとめ	事前) チーム医療に関する配布資料を読み、レポートを作成する。 事後) これまでの授業の内容を復習する。試験の準備を行う。

授業科目	臨床栄養学Ⅲ Clinical Nutrition III				担当教員	岡本 智子			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎		◎		
授業目的	栄養障害、肥満と代謝疾患、消化器疾患、循環器疾患、腎・尿路系疾患、神経疾患、摂食障害、呼吸器系疾患、血液系疾患、筋・骨格系疾患等について、疾患・病態別に栄養ケア・マネジメント（栄養スクリーニング・アセスメント、栄養ケア・計画立案、実施、評価、フィードバック）の方法を学修する。特に栄養ケアプロセス、栄養管理計画立案に必要な情報収集と理由、さらに情報にもとづく栄養評価、栄養診断、栄養ケア計画作成とその根拠、モニタリング、評価計画の作成により患者の QOL を損なわない栄養補給や食事について理解するため学修する。また、栄養サポートチーム（NST）などチーム医療における管理栄養士の役割と活動について学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患ごとの栄養アセスメント項目について違いと評価が根拠をもってできるようになる。 2. 患者ごとの栄養必要量の算出が根拠をもってできるようになる。 3. 患者の食事記録をもとに目標栄養量に対して摂取栄養量の評価ができ、栄養の過不足を把握し、栄養の問題点を抽出し、栄養アセスメント項目とあわせて栄養の問題を抽出できるようになる。 4. 疾患ごとに病状、病態に応じて栄養介入方法を変えていく必要性を理解できるようになる。 5. チーム医療の中で管理栄養士の役割が理解できるようになる 								
関連科目	臨床栄養学Ⅰ、Ⅱ、病理学、病態診療学Ⅰ、Ⅱ								
テキスト	上原啓志夫外 第5版 最新臨床栄養学 栄養治療の基礎と実際 光生館								
参考書	Visual 栄養学テキストシリーズ 臨床栄養学 総論、各論 中山書店（初版第2刷）								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	80	目標の到達状況を下記の方法で評価する。 試験：80% 小テスト：5% 提出物：15%						
	レポート								
	小テスト	5							
	提出物	15							
その他									
履修上の留意事項	各授業の前後にそれぞれに2時間の予習・復習を要する。								
課題に対するフィードバックの方法	小テストはその場で解答し解説をする。提出物には翌週コメントを付し返却する。								
実務経験を活かした教育内容	修得した栄養管理の知識や技術が、実際の臨床の現場で具体的にどのように活用され、活かされているのか、その結果として栄養サポートを受けた患者の状態がどのように変化していくのか、疾患ごとに症例を踏まえ、臨床現場をイメージさせながら授業を進める								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	ガイダンス	授業内容 進め方、事前事後学習の仕方など				シラバス、教科書を確認して授業の準備をする(2時間)。授業の内容をまとめ、復習する(2時間)			
2	NST 介入における栄養管理(1)	疾患・病態別及び栄養サポートチーム(NST)での栄養管理の概念 NST 活動の組織と栄養管理の流れ(管理栄養士の役割 他職種との役割)				事前：配布資料により予習する(2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)			
3	NST 介入における栄養管理(2)	NST おける管理栄養士の役割と栄養管理の実際(低栄養 栄養障害・栄養評価等)				事前：テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)			
4	疾患・病態別栄養管理(1)	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント 消化器疾患上部(口腔内・食道・胃・十二指腸等)				事前：テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)			
5	疾患・病態別栄養管理(2)	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント 消化器疾患下部(炎症性腸疾患等、便性のコントロール(便秘・下痢等))				事前：テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)			
6	疾患・病態別栄養管理(3)	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント(肝疾患等)				事前：テキスト・配布資料により予習する(2時間)。事後：授業内容を整理し、ノートにまとめる(2時間)			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	疾患・病態別栄養管理 (4)	消化器疾患の栄養ケア・マネジメント (胆・膵疾患等)	事前:テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)
8	疾患・病態別栄養管理 (5)	肥満と代謝疾患の栄養ケア・マネジメント (肥満と肥満症)	事前:テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)
9	疾患・病態別栄養管理 (6)	肥満と代謝疾患の栄養ケア・マネジメント (糖尿病)	事前:テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)
10	疾患・病態別栄養管理 (7)	肥満と代謝疾患の栄養ケア・マネジメント (脂質異常症・高尿酸血症・痛風等・)	事前:テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)
11	疾患・病態別栄養管理 (8)	循環器疾患の栄養ケア・マネジメント (高血圧・虚血性心疾患・心不全等)	事前:テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)
12	疾患・病態別栄養管理 (9)	呼吸器疾患栄養のケア・マネジメント (COPD・慢性呼吸不全等)	事前:テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)
13	疾患・病態別栄養管理 (10)	腎・尿路系疾患の栄養ケア・マネジメント (慢性腎臓病・慢性腎不全・糖尿病腎症等)	事前:テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)
14	疾患・病態別栄養管理 (11)	摂食障害関連疾患の栄養ケア・マネジメント (神経性やせ症、神経性過食症等) 血液系疾患栄養のケア・マネジメント (貧血・その他の貧血等)	事前:テキスト・配布資料により予習する (2時間)。事後:授業内容を整理し、ノートにまとめる (2時間)
15	まとめ	患者の QOL と食事管理について	全体を振り返りレポートをまとめる。授業中のディスカッションを踏まえてさらにまとめる (2時間)

授業科目	臨床栄養学実習Ⅰ Clinical Nutrition PracticumⅠ				担当教員	氏家 志乃			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	実習				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
				○	◎		◎		
授業目的	臨床栄養学Ⅰの基礎的な知識に基づいて1) 病院食提供についての仕組み、一般治療食の基準と献立作成、調理までの流れを実習する。2) 傷病者・要介護者の栄養アセスメント、栄養ケア計画(栄養管理計画)の作成方法を実習する。								
到達目標	1. 病院食の基準を理解し、一般治療食の献立作成と調理ができる。 2. 栄養評価ツールを使用し、栄養評価表を作成することができる。 3. 対象者に対応した栄養評価、栄養量の設定ができ、栄養投与方法が選択できる。 4. 多職種で共有できる報告書の作成ができる。(POMR、SOAP)								
関連科目	調理学(実習)、給食経営管理論(実習)、形態機能学(実習)、病態診療学								
テキスト	配布資料を中心に授業を進める。								
参考書	八訂食品成分表、Visual 栄養学テキスト 臨床栄養学総論Ⅰ・各論Ⅱ(中山書店)								
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準・観点						
	試験		到達目標への到達度をレポート30%、提出物40%(献立、実習ワークシート)、その他30%(グループでの取り組み:調理実習15%、グループワーク15%)で評価する。						
	レポート	30							
	小テスト								
	提出物	40							
その他	30								
履修上の留意事項	実習課題やレポート作成のため、各授業前後に1~2時間の時間を要する。								
課題に対するフィードバックの方法	課題やレポート解説は翌授業にて行う。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での事例を提示しながら、治療食や栄養ケア・マネジメントの実際を理解しやすいように説明します。								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	ガイダンス/病院食の種類と特徴(1)	授業ガイダンス/ 病院食提供の仕組み・一般治療食について				事前) シラバス、臨床栄養学Ⅰの関連箇所を確認する。 事後) レポート作成を通して授業を復習する。			
2	病院食の種類と特徴(2)	献立作成(常食)から軟菜食の展開				事前) 前回授業内容を復習する。 事後) レポート作成を通して授業を復習する。			
3	病院食の種類と特徴(3)	調理実習の準備、媒体作成				事前) 前回授業の内容を復習する。 事後) レポート作成を通して授業を復習する。			
4	病院食の種類と特徴(4)	調理実習・献立評価				事前) 調理献立や作業手順について確認しておく。 事後) 課題作成を行う。			
5	病院食の種類と特徴(5)	病院食の種類と特徴のまとめをグループ発表				事前) 課題作成とその確認 事後) これまでのレポート、課題、授業資料を復習する。			
6	栄養ケア・マネジメント(1)	栄養アセスメントー栄養スクリーニングの実施				事前) 臨床栄養学Ⅰの関連部分を復習する。 事後) レポート作成を通して授業を復習する。			
7	栄養ケア・マネジメント(2)	栄養アセスメントー身体計測				事前) 臨床栄養学Ⅰの関連部分を復習する。 事後) レポート作成を通して授業を復習する。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8	栄養ケア・ マネジメント (3)	栄養アセスメントー臨床検査値の読み方	事前) 事前課題を通して予習する。 事後) レポート作成を通して授業を復習する。
9	栄養ケア・マネジメント (4)	栄養アセスメントー食事摂取量の把握と評価、必要栄養量の設定	事前) 臨床栄養学Ⅰの関連部分を復習する。 事後) レポート作成を通して授業を復習する。
10	栄養ケア・マネジメント (5)	栄養ケア計画ー栄養アセスメントに基づいた栄養ケア計画の立案① 献立作成 (分割食、ハーフ食)	事前) 配布資料を確認しておく。 事後) 課題作成を行う。
11	栄養ケア・マネジメント (6)	栄養ケア計画ー特別用途食品、保健機能食品を使用した調理実習	事前) 調理献立を確認する。 事後) 特別用途食品、保健機能食品の活用方法について考え、課題作成を行う。
12	栄養ケア・マネジメント (7)	栄養ケア計画ー食形態 (ゼリー食、ソフト食) の調理実習	事前) 臨床栄養学Ⅰの関係部分や調理献立を確認しておく。 事後) レポート作成を通して授業を復習する。
13	栄養ケア・マネジメント (8)	栄養スクリーニングから栄養ケア計画立案までの症例グループ発表	事前) 症例グループ発表の準備を行う。 事後) 発表内容の再検討を行う。
14	栄養ケア・マネジメント (9)	症例に基づく診療記録の実際 (POMR・SOAP) ①	事前) 臨床栄養学Ⅰの関係部分を復習しておく。 事後) 配布資料を復習する。
15	栄養ケア・マネジメント (10) /まとめ	症例に基づく診療記録の実際 (POMR・SOAP) ②/ 臨床栄養学実習Ⅰのまとめ	事前) 前回の授業内容を復習する。 事後) 配布資料読み授業内容を復習する。

授業科目	臨床栄養学実習 II Clinical Nutrition Practicum II		担当教員	氏家 志乃				
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期		選択・必修	必修				
授業形態	実習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				○	◎		◎	
授業目的	傷病者に対する適切な栄養学的治療手段について実習する。 臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰで学修した知識・技術を発展させ、提示された症例について栄養アセスメント、栄養ケア計画を作成する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な疾患症例を対象に栄養アセスメント、栄養ケア計画の作成ができる。 2. 病態に合わせた献立作成を展開食として作成することができる。 3. 対象者の QOL を考慮し、栄養ケア計画及び献立の評価ができる。 4. 栄養障害を伴う症例の栄養ケア・マネジメントができる。 							
関連科目	病態診療学、形態機能学（実習）、調理学（実習）、給食経営管理論（実習）							
テキスト	糖尿病食品交換表、腎臓病食品交換表、その他配布資料を中心に授業を進める。							
参考書	八訂食品成分表、Visual 栄養学テキスト 臨床栄養学総論Ⅰ・各論Ⅱ（中山書店）							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		到達目標への到達度をレポート 20%、提出物 40%（献立、実習ワークシート）、その他（グループ活動：調理実習 15%、グループワーク 15%）で評価する。					
	レポート	30						
	小テスト							
	提出物	40						
その他	30							
履修上の留意事項	実習課題やレポート作成のため、各授業前後に1～2時間の時間を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	課題やレポート解説は翌授業にて行う。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨床現場での事例を提示しながら、治療食や栄養ケア・マネジメントの実際を理解しやすいように説明します。							
回数(担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習			
1	ガイドランス／病院食について（1）	授業ガイドランス／糖尿病症例（高血圧、脂質異常症複合症例）の栄養アセスメントと栄養ケア計画の作成			事前）臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰの関連部分を確認し復習する。 事後）レポート作成を通して授業を復習する。			
2	エネルギーコントロール食（1）	特別治療食の種類について・基本食から治療食への展開方法			事前）臨床栄養学Ⅱ エネルギーコントロール食と適応疾患、食事療法の基本方針について復習しておく。 事後）レポート作成を通して授業を復習する。			
3	エネルギーコントロール食（2）	糖尿病食品交換表の使い方			事前）糖尿病食品交換表を確認しておく。 事後）レポート作成を通して授業を復習する。			
4	エネルギーコントロール食（3）	糖尿病食品交換表を使用した献立展開			事前）前回授業の内容を復習しておく。 事後）レポート作成を通して授業内容を復習する。			
5	エネルギーコントロール食（4）	糖尿病症例のアセスメントと栄養ケア計画の作成			事前）前回授業の内容を復習しておく。 事後）レポート作成を通して授業内容を復習する。			
6	エネルギーコントロール食（5）	調理実習			事前）臨床栄養学Ⅱの関係部分や調理献立を確認しておく。 事後）レポート作成を通して授業を復習する。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
7	たんぱく質コントロール食（1）	慢性腎臓病症例の栄養アセスメントと栄養ケア計画の作成	事前) 前回授業の内容を復習しておく。 事後) レポート作成を通して授業
8	たんぱく質コントロール食（2）	献立作成：基本献立からたんぱく質コントロール食への展開	事前) 前回授業の内容を復習しておく。 事後) レポート作成を通して授業
9	たんぱく質コントロール食（3）	栄養ケア計画・献立の評価、調理実習の準備	事前) 前回授業の内容を復習しておく。 事後) レポート作成を通して授業
10	たんぱく質コントロール食（4）	たんぱく質コントロール食の調理実習	事前) 調理献立や作業手順について確認しておく。 事後) 課題作成を行う。
11	たんぱく質コントロール食（5）	腎臓病食品交換表の使い方	事前) 腎臓病食品交換表を確認しておく。 事後) 課題作成を行う。
12	嚥下障害（1）	嚥下障害の実際 食品の種類・テクスチャーの違いと飲み込みについて	事前) 臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ関連部分を確認しておく。 事後) レポート作成を通して授業を復習する。
13	嚥下障害（2）	嚥下障害の実際 日本摂食リハビリテーション学会嚥下調整食分類 2021 に基づいた食品分類・調理実習	事前) 調理献立や作業手順について確認しておく。 事後) 課題作成を行う。
14	嚥下障害（3）／臨床 栄養学実習Ⅱのまとめ	嚥下障害を有する低栄養症例の栄養ケア／まとめ	事前) 配布資料を確認しておく。 事後) 授業内容を復習する。

授業科目	公衆栄養学 I Public Health Nutrition I				担当教員	槌本 浩司			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
	○	○		◎		◎			
授業目的	公衆栄養の概念と公衆栄養活動の歴史と生態系保全、地域づくり、ヘルスプロモーション、自己管理能力、疾病予防、少子高齢化における健康増進などの活動について学修する。健康・栄養問題の現状と課題について、社会環境と健康栄養問題や健康状態、食事、食生活、食環境の変化等について理解する。また、我が国における栄養政策についての関連法規、管理栄養士制度について学修する。さらに、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、対策について学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆栄養の概念とマネジメントについて説明できる。 2. 地域づくりのための公衆栄養活動について説明できる。 3. 国民の健康・栄養・食の現状と課題を理解し、説明できる。 4. 健康増進計画における栄養政策について説明できる。 5. 諸外国の健康・栄養問題を理解し、説明できる。 								
関連科目	公衆栄養学 II、公衆栄養学実習 I、栄養教育論、応用栄養学								
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 加島浩子、森脇弘子編「ウエルネス公衆栄養学」(医歯薬出版) 2. 他にテーマごとにプリントを配布する。 								
参考書	1. 佐々木敏著「わかりやすい EBN と栄養疫学」(同文書院)								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	60	目標の到達状況を定期試験、小テスト、その他で評価する。 その他：授業への積極的参加、取り組み姿勢						
	レポート								
	小テスト	30							
	提出物								
その他	10								
履修上の留意事項	各授業の前後に、1～2時間の予習・復習を要します。偶数回の授業時に小テスト(ノート等資料持ち込み可)を実施します。								
課題に対するフィードバックの方法	偶数回における小テストを実施するとともに、小テストの返却時には、個々に対するフィードバックを行う。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、実際のヘルスプロモーションの概念を中心に、法規、管理栄養士・栄養士制度、職業倫理、調査、健康づくり施策について理解しやすいように授業を行います。								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	ガイダンスと公衆栄養の概念	Chapter1_公衆栄養の概念 公衆栄養の概念				事前：授業内容についてシラバスを読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。			
2	公衆栄養活動	Chapter1_公衆栄養の概念 公衆栄養活動				事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。			
3	人口構成の変遷	Chapter2_健康・栄養問題の現状と課題 2-1 人口構成の変遷				事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。			
4	健康状態の変化	Chapter2_健康・栄養問題の現状と課題 2-2 健康状態の変化				事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。			
5	食事の変化	Chapter2_健康・栄養問題の現状と課題 2-3 食事の変化				事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う(1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6	食生活の変化	Chapter2_健康・栄養問題の現状と課題 2-3 食生活の変化	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
7	食環境の変化	Chapter2_健康・栄養問題の現状と課題 2-5 食環境の変化	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う1時間。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
8	食料自給率	Chapter2_健康・栄養問題の現状と課題 3-1 わが国の公衆栄養活動	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
9	公衆栄養関連法規	Chapter2_健康・栄養問題の現状と課題 3-2 公衆栄養関連法規	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
10	わが国の栄養士・管理栄養士制度	Chapter3_栄養政策 3-3 わが国の栄養士・管理栄養士制度	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
11	実施に関する指針・ツール	Chapter3_栄養政策 3-5 実施に関する指針・ツール	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
12	国の健康増進基本方針と地方計画	Chapter3_栄養政策 3-6 国の健康増進基本方針と地方計画	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
13	わが国の栄養士・管理栄養士制度	Chapter3_栄養政策 3-3 わが国の栄養士・管理栄養士制度	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
14	諸外国の健康・栄養政策	Chapter3_栄養政策 3-4 諸外国の健康・栄養政策	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
15	公衆栄養のまとめ	公衆栄養のまとめ	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。

授業科目	公衆栄養学Ⅱ Public Health Nutrition II				担当教員	槌本 浩司			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	講義				単位数	2単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
		○		○		◎		◎	
授業目的	公衆栄養学Ⅰを基礎として、さらに公衆栄養マネジメント、公衆栄養プログラムについて学修する。栄養疫学の概要、地域栄養活動の関連と疫学調査法、データの扱い等を修得し、地域の健康・栄養施策計画立案、実践、評価、フィードバックなどについて学修し、データを解析して課題の抽出までの知識・技術を修得する。さらに、課題とその要因について、理論モデルと疫学データを用いて分析することを学修する。また、専門職として、得られた情報に関する管理、個人情報保護、倫理的配慮を身につける。								
到達目標	1. 公衆栄養マネジメントのツールとしてプリシードプロシードモデルを用いた公衆栄養計画と評価計画の策定プロセスについて説明できる。 2. 食事調査の方法と特徴、活用について説明できる。 3. 健康と食事などの因果関係を把握する研究デザインを説明できる。 4. 実態の分析に基づいた公衆栄養プログラムを策定できる。 5. 計画の適切な評価方法を提案（プロセス評価と結果評価）することができる。								
関連科目	公衆栄養学Ⅰ、公衆栄養学実習Ⅰ、Ⅱ、地域栄養活動演習、栄養教育論、応用栄養学								
テキスト	1. 加島浩子、森脇弘子編「ウェルネス公衆栄養学」（医歯薬出版） 2. 他にテーマごとにプリントを配布する。								
参考書									
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	60	目標の到達状況を定期試験、小テスト、その他で評価する。その他：授業への積極的参加、取り組み姿勢						
	レポート								
	小テスト	30							
	提出物								
その他	10								
履修上の留意事項	各授業の前後に、1～2時間の予習・復習を要します。偶数回の授業時に小テスト（ノート等資料持ち込み可）を実施します。								
課題に対するフィードバックの方法	偶数回における小テストを実施するとともに、小テストの返却時には、個々に対するフィードバックを行う。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、実践に必要な栄養疫学に基づく地域診断に関することに併せ、地域の住民や集団における健康・栄養状態及び社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動について理解しやすいように授業を行います。								
回数 (担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	栄養疫学 (1)	ガイダンスと Chapter4_栄養疫学 栄養疫学の概要と調査バイアス				事前：授業内容についてシラバスを読み予習を行う (1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する (2時間)。			
2	栄養疫学 (2)	Chapter4_栄養疫学 食事調査の方法				事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う (1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する (2時間)。			
3	栄養疫学 (3)	Chapter4_栄養疫学 栄養疫学				事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う (1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する (2時間)。			
4	公衆栄養マネジメント (1)	Chapter5_公衆栄養マネジメント 公衆栄養マネジメント				事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う (1時間)。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する (2時間)。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	公衆栄養マネジメント (2)	Chapter5_公衆栄養マネジメント 公衆栄養アセスメント	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
6	公衆栄養マネジメント (3)	Chapter5_公衆栄養マネジメント 公衆栄養プログラムの目標と課題設定	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
7	公衆栄養マネジメント (4)	Chapter5_公衆栄養マネジメント 食品ロスについて	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
8	公衆栄養マネジメント (5)	Chapter5_公衆栄養マネジメント 公衆栄養プログラムの計画、実施、アセスメント	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
9	公衆栄養マネジメント (6)	Chapter5_公衆栄養マネジメント 行動科学モデルの活用	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
10	公衆栄養プログラムの 展開（1）	Chapter6_公衆栄養プログラムの展開 地域特性に対応したプログラムの展開（1）	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
11	公衆栄養プログラムの 展開（2）	Chapter6_公衆栄養プログラムの展開 地域特性に対応したプログラムの展開（2）	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
12	公衆栄養プログラムの 展開（3）	Chapter6_公衆栄養プログラムの展開 健康・食生活の危機管理と食支援	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
13	公衆栄養プログラムの 展開（4）	Chapter6_公衆栄養プログラムの展開 食環境づくりのためのプログラムの展開	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
14	公衆栄養プログラムの 展開（5）	Chapter6_公衆栄養プログラムの展開 地域集団の特性別プログラムの展開（1）	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
15	公衆栄養プログラムの 展開（6）	Chapter6_公衆栄養プログラムの展開 地域集団の特性別プログラムの展開（2）	事前：授業内容の該当箇所のテキストを読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。

授業科目	公衆栄養学実習Ⅰ Public Health Nutrition PracticumⅠ				担当教員	槌本 浩司			
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期				選択・必修	必修			
授業形態	実習				単位数	1単位			
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6	
		◎				◎			
授業目的	公衆栄養学Ⅰ・公衆栄養学Ⅱを基礎として、地域における効果的な公衆栄養活動について実習を通して学修する。地域における健康課題を既存のデータを解析して抽出し、課題の中から優先的課題を選定し、地域の目標を設定、優先すべき取り組みについてソーシャルマーケティングの方法などを応用して、具体的かつ魅力的な事業計画の立案、評価の作成方法についても設定する。グループディスカッションを取り入れ、これらの事業計画について相互評価等を行い、実習を通して地域住民の健康課題に対応する栄養活動を実践する能力を身につける。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康行動理論モデルを説明できる。 健康・食生活上の課題とその要因の分析について、健康行動理論を用いて説明できる。 課題と要因の中から、優先すべき取り組みを選定することができる。 診断や評価のための技術として、調査票の設計や集計・分析を行うことができる。 調査結果に基づいて、公衆栄養教育プログラムを立案することができる。 								
関連科目	公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅱ、地域栄養活動演習、栄養教育論、応用栄養学								
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 加島浩子、森脇弘子編「ウエルネス公衆栄養学」(医歯薬出版) 他にテーマごとにプリントを配布する。 								
参考書	テーマごとにプリントを配布する。								
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点						
	試験	50	目標の到達状況を試験、小テスト、その他で評価する。その他：実習時の積極性等 20%、報告書(成果発表を含む) 20%						
	レポート								
	小テスト	10							
	提出物								
その他	40								
履修上の留意事項	各授業の前後に、1～2時間の予習・復習を要します。偶数回の授業時に小テスト(ノート等資料持ち込み可)を実施します。								
課題に対するフィードバックの方法	実習時個々の課題の進捗状況に合わせコメントを実施するとともに、課題発表時の講義では、各グループ、全体に対するフィードバックを行う。								
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、地域住民の健康課題に対し、ヘルスプロモーションの概念に基づく公衆栄養活動の実践について理解しやすいように授業を行います。								
回数(担当)	学習の主題	授業内容				事前・事後学習			
1	ガイダンスと公衆栄養アセスメント(1)	ガイダンスと個々に自治体の健康増進計画を情報収集				事前：授業内容についてシラバスを読み予習を行う(1時間)。事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。			
2	公衆栄養アセスメント(2)	自治体の健康増進計画の情報収集と整理				事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う(1時間)。事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。			
3	公衆栄養アセスメント(3)	自治体の現状値→課題→政策(取り組み)の整理				事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う(1時間)。事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。			
4	公衆栄養アセスメント(4)	自治体の健康増進計画の要約の発表				事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う(1時間)。事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する(2時間)。			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5	公衆栄養計画案作成Ⅰ _1)	「食品ロス事業」策定準備情報収集	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
6	公衆栄養計画案作成Ⅰ _2)	「食品ロス事業」策定準備情報収集と整理 ※特別講師（消費者庁）を予定	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
7	公衆栄養計画案作成Ⅰ _3)	「食品ロス」現状値→対象者の決定→実施事業の取決め	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
8	公衆栄養計画案作成Ⅰ _4)	食品ロス対策事業の発表	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
9	公衆栄養計画案作成Ⅱ _1)	地域の食生活情報の整理_食事調査解析	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
10	公衆栄養計画案作成Ⅱ _2)	地域の食生活情報の整理_食事評価方法	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
11	公衆栄養プログラムの 展開 1)	自治体の栄養事業計画作成	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
12	公衆栄養プログラムの 展開 2)	地域集団の特性別プログラムの展開 1	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
13	公衆栄養プログラムの 展開 3)	地域集団の特性別プログラムの展開 2	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
14	公衆栄養プログラムの 展開 4)	自治体の栄養事業計画プログラムの発表 1	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。
15	公衆栄養プログラムの 展開 5)	自治体の栄養事業計画プログラムの発表 2	事前：授業内容について前回配布資料を読み予習を行う（1時間）。 事後：配布資料やテキストを基に授業内容を復習する（2時間）。

授業科目	総合演習Ⅰ Practical Seminar of Nutrition I		担当教員	山部 秀子、渡辺 いつみ、岡本 智子、 槌本 浩司				
対象学科・ 年次・学期	栄養学科・3年次・通年		選択・必修	必修				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロ マ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	◎			○			○	○
授業目的	臨地実習の概要について学修する。各臨地実習（給食経営管理論実習Ⅱ・Ⅲ、臨床栄養学実習Ⅳ・Ⅴ、公衆栄養学実習Ⅱ）の意義や目的と施設概要、実習内容について学修する。また、臨地実習に臨むにあたり、必要となる知識・技術・態度について理解する。それらの学修をふまえて、臨地実習（給食経営管理論実習Ⅱ）の事前準備を行う。実習の目的に合わせ、基礎知識の整理と復習、臨地実習施設への訪問、施設指導者との打ち合わせ、実習課題の設定、実習課題に対する評価の設定などを実習に備えて進める。臨地実習終了後は臨地実習の成果発表を行い、実習で修得した知識や技術を共用し、定着させる。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各臨地実習の意義・目的・実習施設の特徴を説明できる。 2. 各臨地実習における自主課題の設定とその理由を説明できる。 3. 社会人としてそれぞれの実習施設（学校・介護施設・福祉施設・病院・保健所・保健センター等）において利用者・地域住民・関係者に対応できる態度を身につけている。 4. 実習内容の報告、研究活動の報告を成果として発表、説明できる。 							
関連科目	各臨地実習における先修条件科目が該当する。またその他、各臨地実習までに学修してきた専門基礎科目および専門科目と関連する。							
テキスト	臨地実習について資料配布（実習要項など）、課題設定に関する資料、実習ノート							
参考書								
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標達成状況を下記の点から評価し、60点以上を合格とする。					
	レポート		1. 提出物 20点：実習の目的、課題の提出					
	小テスト		2. その他 80点：配分は下記の通り					
	提出物	20	実習施設指導者の評価：30点 実習ノートの内容が的確に記載されている 30点					
その他	80	実習報告等による実習目標、課題の達成度について（発表含む）20点						
履修上の 留意事項	臨地実習は学生として学ぶとともに、社会人としての責任ある態度が求められる。事前学習において積極的に学び十分に準備を整えること。							
課題に対するフィ ードバックの方法	実習目標の設定、課題への取り組みに対して、学生が主体的に進められるよう、随時助言をしながら、各臨地実習に向けての準備を進める。							
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から臨地実習（給食経営管理論、臨床栄養、公衆栄養）について具体的な説明、準備などの指導を行い、臨地実習へ安心して臨めるよう授業を行う。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容			事前・事後学習			
1 (山部) (渡辺)	オリエンテーション	臨地実習について 臨地実習の概要			事前：臨地実習要項を読んでおくこと（0.5時間） 事後：臨地実習の目的等についてまとめること（0.5時間）			
2 (山部) (渡辺)	給食経営管理論実習について (臨地実習科目)	給食経営管理論実習Ⅱ・給食経営管理論実習Ⅲについて			事前：臨地実習要項を読み、疑問点を明確にしておく（0.5時間） 事後：目的や内容をまとめる（0.5時間）			
3 (山部) (渡辺)	臨地実習における実習 課題の意義と目的	自主課題の設定と取り組みについて			事前：臨地実習要項を読み、自己の実習課題を明らかにしておく（0.5時間） 事後：課題を精査する（0.5時間）			
4 (山部) (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 臨地実習の事前準備・ 施設訪問	施設訪問と事前あいさつ、実習・課題等についての打ち合わせについて			事前：実習の目的、課題等をまとめて授業に臨む（0.5時間） 事後：実習の具他的準備に取りかかる（0.5時間）			

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
5 (山部 (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 臨地実習事前準備・施設訪問	実習指導者との連絡、相談、報告（課題・準備するものなど）	事前：施設訪問への準備をする（0.5時間） 事後：面接等の内容を整理し教員へ報告する（0.5時間）
6 (山部 (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 臨地実習 実習課題について（Ⅰ）	自主課題決定・課題評価項目の設（Ⅰ）	事前：課題決定・整理・計画等の準備（0.5時間） 事後：決定後の内容精査等をおこなう（0.5時間）
7 (山部 (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 臨地実習に向けての心構え	外部講師による実習に向けての心構え ※特別講師	事前：実習要項を再度確認し、実習に向けての取り組み姿勢を確認する（0.5時間） 事後：実習に向けて学生として取り組むべき態度等について整理する（0.5時間）
8 (山部 (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 臨地実習 実習課題について（Ⅱ）	最終確認（基礎知識の確認・実習準備・必要な物等）	事前：実習要項を読み、持ち物等について確認する（0.5時間） 事後：すべての準備の最終確認を行う（0.5時間）
9 (岡本)	臨床栄養学実習Ⅳ・Ⅴ	臨床栄養学実習Ⅳ・臨床栄養学実習Ⅴについて	事前：臨地実習要項を読み、疑問点を明確にしておく（0.5時間） 事後：目的や内容をまとめる（0.5時間）
10 (槌本)	公衆栄養学実習Ⅱ	公衆栄養学実習Ⅱについて	事前：臨地実習要項を読み、疑問点等を明確にしておく（0.5時間） 事後：目的や内容をまとめる（0.5時間）
11 (山部 (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 成果発表準備（Ⅰ）	成果報告会準備（資料整理等）	事前：成果発表のための実習ノート整理（0.5時間） 事後：成果発表内容を整理する（0.5時間）
12 (山部 (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 成果発表準備（Ⅱ）	発表スライドおよび報告書の作成	事前：スライドおよび報告書作成に向け実習ノート整理（0.5時間） 事後：スライドおよび報告書の内容精査を行う（0.5時間）
13 (山部 (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 成果発表（Ⅰ）	成果報告会（Ⅰ）	事前：スライドを読み込む（0.5時間） 事後：評価を整理する（0.5時間）
14 (山部 (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 成果発表（Ⅱ）	成果報告会（Ⅱ）	事前：スライドを読み込む（0.5時間） 事後：評価を整理する（0.5時間）
15 (山部 (渡辺)	給食経営管理論実習Ⅱ 成果発表（Ⅲ） 臨地実習総合評価	成果報告会（Ⅲ） 臨地実習における課題・評価について	事前：スライドを読み込む（0.5時間） 事後：評価を整理するまた、総合評価結果を整理する（0.5時間）

授業科目	英語文献講読演習 Readings in English Nutritional Articles		担当教員	松川 典子、板垣 康治、津久井 隆行				
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・後期		選択・必修	選択				
授業形態	演習		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
		◎		○				
授業目的	基本的な栄養学・食品学の英単語を理解する。また英語論文などの文献検索方法を習得し、最新の栄養科学論文に触れることで将来、管理栄養士として必要な英語力を身につける。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な栄養学の単語を理解する。 2. 基本的な食品学の単語を理解する。 3. 英語論文などの文献検索ができる。 4. 栄養学関連の科学論文を読み要約できる。 							
関連科目	食品科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生化学Ⅰ・Ⅱ、食品機能学							
テキスト	教員の配布資料							
参考書	清水雅子「はじめての栄養単語」(講談社サイエンティフィック) 阿部祐子/正木美知子「英語で読む21世紀の健康」(講談社)							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の到達状況をレポート、その他で評価する。 担当者ごとにレポート70%、その他30%(30点)とし、合計100%(100点)となるように評価し、各担当者の平均を最終評価とする。 その他：授業時の発表、取組み姿勢					
	レポート	70						
	小テスト							
	提出物							
その他	30							
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業前に配布資料の該当ページに目を通し予習する。 2. 授業後には配布資料の配布資料の該当ページに目を通し復習する。 3. 各授業の前後に約1時間の予習・復習を要する。 							
課題に対するフィードバックの方法	レポートは、添削し返却する。							
実務経験を活かした教育内容								
回数(担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1 (松川)	オリエンテーションと英語文献検索方法	英語文献検索方法について理解する。					事前：シラバスを確認する。 事後：文献検索方法を確認し、興味がある文献を検索する。	
2 (松川)	基本的な栄養学英語(1)	基本的な栄養学英単語について解説する。					事前・事後：配布資料を用いて授業内容を予習・復習する。	
3 (松川)	基本的な栄養学英語(2)	基本的な栄養学英単語について解説する。					事前・事後：配布資料を用いて授業内容を予習復習する。	
4 (松川)	基本的な栄養学英語(3)	基本的な栄養学英単語について解説する。					事前・事後：配布資料を用いて授業内容を予習復習する。	
5 (松川)	食品機能学関連の科学論文の要約	自分で検索した食品機能学論文を要約し発表する。					事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。	
6 (津久井)	食品科学論文の要約(1)	食品科学論文を要約し発表する。					事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。	
7 (津久井)	食品科学論文の要約(2)	食品科学論文を要約し発表する。					事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
8 (津久井)	食品科学論文の要約 (3)	食品科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。
9 (津久井)	食品科学論文の要約 (4)	食品科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。
10 (津久井)	食品科学論文の要約 (5)	食品科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。
11 (板垣)	栄養学関連科学論文の 要約(1)	栄養学関連科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。
12 (板垣)	栄養学関連科学論文の 要約(2)	栄養学関連科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。
13 (板垣)	栄養学関連科学論文の 要約(3)	栄養学関連科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。
14 (板垣)	栄養学関連科学論文の 要約(4)	栄養学関連科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。
15 (板垣)	栄養学関連科学論文の 要約(5)	栄養学関連科学論文を要約し発表する。	事前：発表資料を作成する。 事後：発表内容を振り返り、得られた情報を整理する。

授業科目	地域連携ケア論Ⅲ Theory of Community-based Care III		担当教員	氏家 志乃、槌本 浩司、澤田 優美、小川 克子				
対象学科・年次・学期	看護学科/栄養学科・3年次・前期		選択・必修	必修				
授業形態	講義		単位数	1単位				
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
	○	○	○	○	○	○	◎	
授業目的	<p>「地域連携ケア論Ⅰ～Ⅳ」では、1～4年次を通じて、地域の生活と健康との関連、地域の健康課題と社会資源、保健医療福祉チームに関わる多職種の理解と連携方法、事例からの学びを通して看護師、管理栄養士の専門性や役割理解を深めることを目的とする。</p> <p>そのうち3年次の本科目では、地域連携ケア論Ⅰ・Ⅱでの内容をもとに、多職種・協働して活動を展開する必要性と、その様なシステムを構築するまでのプロセス、そのプロセスにおける必要な要素について実際の活動例をもとに学修する。その学修を通して、保健医療チームにおける多職種の理解とともに、保健医療におけるチームアプローチの重要性を理解し、自身が目指す職業の専門性、役割について考察する。また、当事者である生活者が地域の課題解決のプロセスに参画することの必要性についても考察する。</p>							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を解決する支援について理解する。 ・保健医療福祉チームにおける多職種・機関との連携・協働について理解する。 ・住民の健康な生活を支える各種法律、制度（介護保険、健康保険制度、障害者総合支援法等）を理解する。 ・地域の健康課題を解決していくために必要なパートナーシップについて理解する。 ・地域で生活する人々が、課題解決のプロセスに主体的に参加する必要性を理解する。 							
関連科目	これまで既習の全ての教科目と関連します。							
テキスト	なし							
参考書	開講時に提示する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		各回、授業内容に応じた提出物（40%）を予定している。また、目標の達成状況をレポート（60%）する。詳細は授業の中で説明する。					
	レポート	60						
	小テスト							
	提出物	40						
その他								
履修上の留意事項	地域連携ケア論Ⅰ・Ⅱと一体の科目として学修すること。各授業の前後に3～4時間の予習・復習を要する。							
課題に対するフィードバックの方法	各講義での提出物については次の講義内で全体にフィードバックを行う。また、最終レポートに関しては、フィードバック内容を記載し返却する。							
実務経験を活かした教育内容	地域で実務経験のある教員が、経験を基に分かりやすく講義を展開します。							
回数 (担当)	学習の主題	授業内容					事前・事後学習	
1 (氏家)	授業ガイダンス	授業ガイダンス。「地域連携ケア論Ⅱ」の振り返り。生活を支える専門職の専門性と役割は何か。					授業前にシラバスを読んでおくこと。授業後には配布資料を確認し、内容を復習すること。	
2 (槌本)	多職種・機関との連携・協働	保健医療福祉チームにおける各保健医療専門職者、他機関の役割、連携、協働の必要性を理解する。					授業前に前回の学修内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。	
3 (氏家)	多職種・機関との連携・協働に参画している専門職者からの講話	外部より実際に多職種・機関との連携・協働に参画している専門職の先生を招き、多職種・機関との連携や協働の実際を講義いただく。					授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。	
4 (小川)	地域ケアを支える各民生委員・民生児童委員からの講話	民生委員・民生児童委員の役割と多職種・機関との連携・協働の実際について					授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。	
5 (澤田)	住民の健康な生活を支える各種法律、制度など	介護保険、健康保険制度、障害者総合支援法などについて理解する。					授業前に前回の学修内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。	

回数 (担当)	学習の主題	授業内容	事前・事後学習
6 (小川)	住民参画とパートナーシップ	住民が地域の課題解決のために専門職と協働し、専門職が住民とパートナーシップを気づくことの重要性について	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には内容を復習すること。
7 (澤田)	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについてⅠ	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについて。自分自身が目指す職業の専門性について気づきの共有（その1）	授業前に前回の授業内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。
8 (槌本)	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについてⅡ	保健医療福祉チームにおける多職種と住民とのパートナーシップについて。自分自身が目指す職業の専門性について気づきの共有（その2）	授業前に前回の学習内容を復習すること。授業後には、内容を復習すること。

授業科目	給食経営管理論実習Ⅱ Field Practice in Nutrition and Food Service Management II				担当教員	山部 秀子、渡辺 いつみ		
対象学科・年次・学期	栄養学科・3年次・前期				選択・必修	必修		
授業形態	実習				単位数	1単位		
学科ディプロマ・ポリシー	DP1-1	DP1-2	DP2	DP3	DP4-1	DP4-2	DP5	DP6
				◎	◎		○	○
ねらい	給食業務を行うために必要な、食事計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を修得するために、実践の場で学修する。給食の運営に必要な給食費・献立作成、材料発注、検収、食数管理、調理作業、配膳などの基本的業務に関する実務を理解する。高齢者・介護施設等において実習し、それぞれの施設の特徴にあわせた給食の運営について、管理栄養士の業務や役割を実践の場で学修する。							
実習目標	1. 給食運営に必要な給食費、献立作成、材料発注、検収、食数管理、調理作業、配膳などの基本的業務について具体的に説明できる 2. 施設の特徴に応じた給食の運営について具体的に説明できる。							
関連科目	給食経営管理論Ⅰ・給食経営管理論Ⅱ・給食経営管理論実習Ⅰ、総合演習Ⅰの他、これまでに学修してきた専門基礎科目および専門科目が関連する。							
実習内容	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設等の給食提供施設における実習。 具体的な実習内容等については、実習要領等を用いオリエンテーションにて説明する。							
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準・観点					
	試験		目標の達成状況を下記の点から評価し、60点以上を合格とする					
	レポート		1. 提出物 20点：実習の目的、課題の提出					
	小テスト		2. その他（配分は以下の通り） 実習指導者の評価：30点					
	提出物	20	実習ノートの内容が的確に記載されている 30点					
その他	80	実習報告内容（目的や課題の達成について）評価（発表を含む）20点						
履修上の留意事項	1. 臨地実習はオリエンテーション、臨地実習、事後指導の3つの括りで実施する。 2. 本実習は総合演習Ⅰにおいて、事前準備等を行い、事後には成果発表を行う。 3. 給食経営管理論や関連科目で学修したことが基礎となるため、事前に学修すること。 4. 社会人として実践の場で責任を果たすことを自覚し、自己管理を厳しく行うこと。 5. 不明な点等については、調べる（質問する等を含む）等し、問題点を明確にし、正しい知識を修得しておくこと。							
課題に対するフィードバックの方法	実習目標の設定、課題への取り組みに対して、学生が主体的に進められるよう、随時助言をしながら、各臨地実習に向けての準備を進める。							
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から臨地実習への準備、実習内容、注意点などについて具体的に授業を行い、各自が安心して実習に取り組めるよう指導する。また、実習施設においては施設職員、管理栄養士など実務指導者から実践的な指導を受けることによって、管理栄養士の業務が具体的に理解できる授業である。							
実習方法	<p>具体的内容についてはオリエンテーションで説明する。</p> <p>1. オリエンテーション（総合演習Ⅰにて） 給食経営管理論実習Ⅱ臨地実習について 事前準備 実習施設指導者との事前打ち合わせ 実習施設の概要把握 課題（自主課題または実習施設からの提示課題）の準備</p> <p>2. 実習 実習施設（特別養護老人ホーム等）における実習（45時間）</p> <p>3. 事後指導 実習成果のまとめ実習 実習ノート等の提出 実習報告会準備（スライドおよび報告書） 総合演習Ⅰの成果発表会における発表</p>							
実習施設	特別養護老人ホーム・介護老人保健施設等の給食提供施設							